

(公財) 中村元東方研究所 / 東方学院

東方だより

令和元年度 後期号 (通号 第 35 号)

〒 101-0021
東京都千代田区外神田 2-17-2
延寿お茶の水ビル 4 階
TEL : 03-3251-4081
FAX : 03-3251-4082
<http://www.toho.or.jp>
<https://www.toho-gakuin.org>

目次

理事長ご挨拶	1 頁
新理事ご紹介	2・3 頁
芳名録	4 頁
講師・研究会員・研究員の声	5〜7 頁
行事報告・今後の行事	8・9 頁
新刊紹介	2・3・4・8・9 頁
事務局通信	10 頁



あるインドの思想家の話 (その I)

— 理事長ご挨拶にかえて —

前田専學理事長



この度は日本では知られていないインドの思想家ハリ・プラサード・シャーストリー (Hariprasad Shastri 一八八一—一九五六) とその妻小川八千代 (一八九九—一九六五) について紹介したいと思います。

当時の日本は次第に帝国主義的傾向を強め、一八七六年には朝鮮に対して日鮮修好条規を結ばせ、政治的・軍事的介入を強行しはじめ、日清戦争 (一八九四—一八九五) と日露戦争 (一九〇四—一九〇五) に勝ち、一九一〇年には日韓併合を強行するような状況でありました。シャーストリーの父シュリー・ダーダーは、このような事実を見て、わが子に日本に行くことを要請しました。

一九一六 (大正五) 年秋、彼はインドから日本に向かって船出し、同年一〇月九日に神戸に乘陸しました。東京に来た彼は、少なくとも二三ヶ月は世田谷町 (?) に住み、その後はおそらく戦前に本郷の菊坂台上にあった菊富士ホテルに宿泊したようです。彼は、英国を中心にヨーロッパへ留学して帰国し、日本のインド学の先駆者となった高楠順次郎

(一八六六—一九四五) に招かれて六回ほど東京大学で講義をしました。また彼は早稲田大学文学科のインド哲学教授武田豊四郎とも親交を結び、一九〇八年に学内に設立された印度学会 (会長・武田豊四郎) の例会で、インドの宗教・思想についてしばしば講演しました。また当時の大隈重信・頭山満・大川周明・渡辺海旭・南条文雄・河口慧海などにも会っています。

しかし当時日本に来ていた R・B・ボースによって代表される反英的なインドの革命志士たちからの脅迫や国粹的な日本人からの嫌がらせなどが厳しかった。当時日本に亡命していた孫文 (一八六六—一九二五) と偶然に丸善で会い、彼から中国に来るように誘われ、ついに一九一八年四月二〇日日本を諦めて上海に渡りました。中国には十一年滞在し、一九二九年六月二九日にロンドンに到着しました。一九三三年にシャーンティ・サダン (Shanti Sadan) が設立され、やがて手狭になり、現在の場所 29 Chapstow Villas, London W11 3DR に移りました。彼の活躍はこれを中心にして行われ、彼の講義はその死の二週間前まで続けられ、一九五六年一月彼の七四年の生涯を閉じました。(次号に続く)



新理事ご紹介

学び続ける思いで…

青木晴美理事



私は精密測定機器メーカーである株式会社ミットヨで、経理部門を中心に管理畑を歩いてきました。ミットヨ

は私が現在奉職している公益財団法人仏教伝道協会の発願者である沼田恵範氏が仏教伝道のために創業した会社でもあります。この度、公益財団法人中村元東方研究所の理事就任を打診された時は私のような門外漢が、東洋思想・文化に関する研究調査、研究者の育成、そして学術・文化を振興し、豊かな人間性を涵養するという高邁な目的に向けて活動する中村元東方研究所の理事として果たして相応しいのかと考えました。しかし、中村元先生には仏教伝道協会の設立発起人として、また設立後は三〇年の長きに亘り理事をお勤め戴いた御恩と、理事長の前田専學先生には常日頃ご指導を仰いでいるご縁もあり、少しでもお役に立つことが出来ればと思いつき就任させて戴きました。ところでミットヨは早い時期から海外展開を進めヨーロッパ地区では

一九六八年に現地法人を設立しています。私
は一九八一年を初めとして二〇一七年までに
三回のドイツ勤務を経験して通算では二五年
ほどドイツ・デュッセルドルフで暮らしてお
りましたので、私にとってドイツは第二の故
郷と思っているところです。オフィスへは車
で二〇分ほど、通勤ラッシュも無く、また週
末はゴルフをしたり、気が向けば隣のオラン
ダ、ベルギーの街並みを楽しんだり、仕事は
ハードでしたが ON/OFF の切り換えでストレ
ス無く過ごすことが出来たのかと振り返って
います。しかし、測定器ビジネスから仏教伝
道活動への転換は文化・言葉の大きな壁があ
り、日本語さえも他言語かと思われるのに、
パリ語、サンスクリット語なども現れると
未だに混乱しています。こ
のような状況にあります。こ
のような世界を知る喜びと共
に成長してまいりたいと願
っております。皆様からの
ご指導、ご教授を戴きなが
ら中村元東方研究所の益々
のご発展に少しでもお役に
立てることを念じて、理事
就任のご挨拶とさせていただきます。
合掌

あおき はるみ

1950年12月13日生まれ。武蔵大学経済学部卒。
1973年4月 (株)ミットヨ製作所(現ミットヨ)入社。
(株)ミットヨ 取締役、欧州ミットヨ社長、常務執行役員
を経て現在、公益財団法人 仏教伝道協会 常務理事、全
日本仏教会 理事。

新 刊 案 内

前田専學編 『原始仏典Ⅲ 増支部経典 第七巻』



原始仏教の世界を平明な訳文で記す、『原始仏典』I・IIにつづく決定版。
『パリ語三蔵』の「経蔵」に収められている原始仏教経典、『長部経典』『中部経典』『相
応部経典』につづく『増支部経典(アングッタラ・ニカーヤ)』の現代語訳。「寄る辺」「罵
り」「自分の心」「希望」など、第十集第1章から第10章までを収録。

単行本：340頁
出版社：春秋社
発売日：2019年12月17日
ISBN-13：978-4-393-11357-8
言語：日本語
定価：本体 6,000 円 (税別)

仏陀の思想を自己の 依り処とするとは？

本多弘之理事



この度、東方学院の理事に就任した本多弘之です。この学院の講師に迎えて頂いたときにも申し述べたことで

すが、私は現在の学院長・前田専學先生とのご縁で、講師を依頼されてお引き受けしたのですが、今回もこの学院の理事に御推挙いただき、恐縮しながらお引き受けした次第です。私は真宗大谷派が東京の文京区本郷追分（現在は湯島二丁目に移転）に立ち上げた「親鸞仏教センター」にかかわっており、そのセンターの仕事として鈴木大拙訳『教行信証』の再版に当たることになっていました。前田専學先生には、その編集の責任者となっていたべくお願いをし、お引き受けいただいたということがあります。そのご縁から、このお役をお引き受けすることになったのです。

私の専門領域は、親鸞の教学を専門的に研究する真宗学という分野です。大学時代は東京大学農学部林産学科で学んだのですが、その時代は折からの六〇年安保闘争（一九六〇年前後）のまっただ中でした。敗

戦の貧困状態から復興するべく日本全体が、まっしぐらに物質的豊かさを求めて動き始めた時代でした。

私は大学を卒業するに当たり、その物質的な豊かさを求める動きに身を任せざる決断ができなかったため、しばらく時間をいただきたい、精神的支柱を身に付けてからその方向に生きようと思つて、京都の大谷大学大学院において、仏教を学び始めたのでした。そういう動機だったので、いわゆる当時の仏教学の方法論とはまったく異なる、京都の実存的・思想的な学問を学び始めたのでした。

ところが、自分の思いとは異なり、悠久の時間を語り継がれてきた仏教の思想は、それほど簡単に短時間で身につけることができなただけではなく、大学院生活程度ではその目処すら見えないという有り様でした。結局、元の志願であった物質文明をより立てる方向に戻ることができないままに現在に至つていて、しかも親鸞の言葉の深奥の魅力に取り付かれていたありさまなのです。そのような私をお使い下さる当学院に、深く感謝しております。なにぞごよろしくお願ひします。



ほんだ ひろゆき

1938年7月12日中国黒龍江省生まれ。
1961年東京大学農学部林産学科卒業。
元大谷大学助教授。現在、真宗大谷派（東本願寺）親鸞仏教センター所長。台東区本龍寺住職。

新 刊 案 内

ハリ・プラサード・シャーストリー著、前田専學訳

『ここに響く日本 1916～1918』

：あるヒンドゥー思想家の訪日印象記』 Kindle版

一人のヒンドゥー思想家シャーストリーの1916年から1918年の僅か二年間の日本旅行記。親日家ではあるものの、親英的にして反帝国主義的なヒンドゥー思想家シャーストリーに対しては、国粹的な日本人からの嫌がらせなどが厳しかったようである。当時日本に亡命していた孫文と偶然に出会い、彼から中国に誘われ、1918年4月20日上海に渡った。本書はその間にシャーストリーが実際に見、学び、体験した激動の日本の知られざる側面である。



ファイルサイズ：4624 KB

ASIN：B07XFZ3PG3

出版社：響流書房（販売：Amazon Services International, Inc.）

言語：日本語

発売日：2019年9月3日

Kindle 価格：500円（税込）

令和元年度芳名録 (五十音順・敬称略)

本年度も多くの皆様にご支援いただきました。心から御礼を申し上げるとともに、ご芳名を記します。

※令和 2 年 1 月 30 日受領分までを掲載しております。

維持会員

一心寺 石上和敬 宇杉真 小笠原勝治 川崎信定 川崎寿子 川崎大師平間寺 公益財団法人克念社 小林和子 在家仏教こころの研究所 宗教法人西来寺 史跡足利学校事務所 釈悟震 株式会社春秋社 淳心会(日野紹運) 末廣照純 鈴木一馨 浅草寺 高崎宏子 高橋堯英 高松孝行 田辺和子 中央学術研究所 千綿道人 津田眞一 トヨタ自動車株式会社 中田直道 成田山新勝寺 日本ヨーガ禅道院 念法眞教金剛寺(桶屋良祐) 羽矢辰夫 公益財団法人仏教伝道協会 法恩寺(藤原敏文) 法清寺(奈良修一) 前田專學 前田式子 丸井浩 三木純子 水野善文 三友健容 学校法人武蔵野大学 薬王院 山崎桂子 渡邊信之 渡邊寶陽 渡邊隆生

賛助会員

阿部敦子 粟野芳夫 飯高淑子 石井勝彦 今西順吉 入江宥道 石上智康 白井ふじ子 遠藤康 大井玄 太田正孝 大谷光真 小笠原隆元 岡田真水 岡田行弘 緒方康信 荻山貴美子 オリオン産業株式会社 奥住毅 桂紹隆 菅野博史 北村彰宏 倉田治夫 黒川文字 黒田大雲 小林正和 小林守 小峰啓誉 小峰立丸 古村けさじ 小山典勇 金剛院仏教文化研究所 公益社団法人在家仏教協会 齊之平伸一 斎藤明 佐久間留理子 櫻井瑞彦 桜井俊彦 佐藤行教 佐藤憲晃 下田勇人 真観寺(中村重継) 末木文美士 菅沼莊二郎 須佐知行 鈴木忠一 関戸堯海 千賀正榮 高橋審也 田上太秀 武田浩学 立花ひろ子 田丸淑子 千葉よし子 鶴谷志磨子 株式会社展勝地 當間哲也 公益財団法人東洋哲学研究所 一般財団法人徳育経営研究所 徳田勝洋 戸田忠 鳥山玲 中谷信一 長野市南長野仏教会 中村行明 中村久夫 西尾秀生 西岡祖秀 西川高史 西宮寛 日本ヨーガ学会 長谷川恵子 畠中光享 花岡秀哉 花山多賀江 濱川香雅里 濱川量子 比良佳代子 平井恭子 福重利夫 福留順子 藤井教公 藤井知興 藤田宏達 法雲寺(水谷浩志) 寶幢院(原隆政) 保坂俊司 堀江順司 松浦和也 松原光法 的場裕子 水谷俊一 宗教法人密蔵院(山口正純) 三友量順 宮元啓一 彌勒密寺(上村正剛) 森祖道 矢島浩志 矢島道彦 山口泰司 桂徳院(山本文溪) 由木義文 好井瑞皖

東方学院後援会

新井順證 今宮戎神社 大神神社 奥田聖應 加藤公俊 健代和央 古泉圓順 坂本峰徳 総本山四天王寺 四天王寺大学 学校法人清風学園 瀧藤尊淳 塚原聖應 唐招提寺 宗教法人東大寺 念法眞教 平岡英信 南谷恵敬 宮崎光映 森田惇朗 森田俊朗 山岡武明 吉田明良

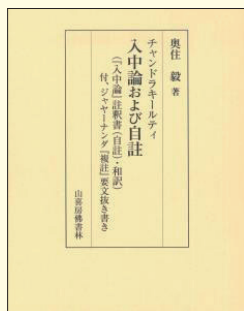
ご寄付

岡村光展 川崎信定 小塚一隆 小山典勇 清水谷善圭 野津一成 福重利夫 保坂俊司 松久保秀胤 御園生妙子 三宅善夫

新 刊 案 内

奥住毅著 『チャンドラキールティ 入中論および自註』

チャンドラキールティ(月称, 650年頃)の主著である『入中論』に対する、彼自身が制作した注釈書と、合体された著作『入中論注釈書』を、唯一現存する原文チベット訳より翻訳したものを中心とする書物。チャンドラキールティは、7世紀のインド大乘仏教、中観派におけるプラサンギカ派に属すると、後代において評価されている論師である。本書には、訳者が上記の書物を読解するのに活用したというジャーナンドによる複註(『入中論複註』)の中の有用な部分も訳註として付加した労作。



単行本：1026頁
 出版社：山喜房佛書林
 定価：本体 33,000円(税別)

ISBN-13：978-4-7963-1030-7
 言語：日本語
 発売日：2019年10月25日

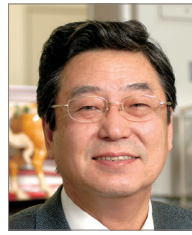
東方学院

講師ご紹介

浅野孝雄 講師

(東京本校)

脳科学と仏教の両面から「心」について考える



「脳科学と仏教心理学」をタイトルとする本講義は、できるだけ平易な説明を心掛け、聴講者の皆様と共に学び考えていくことを目指しています。昨年の講義の前半では現代複雑系理論に基づく意識理論を、後半ではブツダの三法印・十二縁起から唯識に至るまでの仏教心理学と現代意識理論との関係

を夫々主題としました。一連の講義を通じて、聴講者の皆様は科学的な眼で仏教思想を見ることを学び、また私自身は自分の考えをさらに深めることができたと思っています。私の発想の原点は、山口瑞鳳氏が『評説・古代インド仏教哲学史』で詳説されている、ブツダの「非相」および「縁起生」という言葉

にあります。一言で言えば、それは「人間は常に変動する外界のプロセスを、へ不思議な天与の知覚能力」によって捕捉し、それを言語に移し替えることによって理解して自らの世界を作り出す」ということです。それは、超自然的な存在「神」に拠ることなく、自分が知的で自律的な存在であること、人類が初めて自覚したことを意味します。そこに、仏教心理学と現代意識理論との最大の接点「共通点」が存するのです。ブツダが言うところの「天与の知覚能力」に関わる脳プロセスの解明こそ、現代脳科学が担う最大の課題です。

「心」を持たない人工知能(AI)が世界を支配しつつある現代において、「脳科学」と仏教の両面から「心」について考えることは必要不可欠であるという観点から講義を進めていく所存です。

あさの たかお

1962年東京大学医学部卒業。1986年埼玉医科大学総合医療センター脳神経外科教授、2007年定年退職。現在、埼玉医科大学名誉教授。著書に『古代インド仏教と現代脳科学における心の発見』(産業図書)、訳書に『ブツダが考えたこと』(R.ゴンブリッチ著、サンガ)など。

武田龍 講師

(中部校)

究極の課題



「浄土三部経を読む」講座には前史があります。前田惠學先生(專學先生のご令兄)

から新しい研究会を起こしたいと相談を受け、一時間ほどのレクチャーの後に、開催趣旨文をまとめるように頼まれました。先生が特に留意されたのは「仏教の最高究極の価値」について議論することでした。二〇〇四年四月、「仏教における最高究極の価値とは何か」をテーマとするアジア仏教研究会が発足し、パース、仏教学、西洋哲学、国文学など幅広い分野の研究者が集まりました。原始仏教の知識に基づき「浄土三部経」を読み、大乘の興起と浄土教を考える会でした。月に一度、各自が必要とする資料を持ち寄り、先生が漢文の書き下し文をお読みになり疑問点を提起される形式で、俎

上に載せたのは現代の浄土教でした。自身の信心にもつながり、先生の究極の課題であったのです。会員からも容赦なく質問が生まれ、熱を帯びた議論は三時間に及ぶことが多く、終了後には心地よい疲労感を覚えたものです。遠足と称して、比叡山では特別に常行三昧堂に入れていただき薄暗い堂内を右遷しながら親鸞の心境に思いを馳せ、奈良博では日中交流史を学びました。五年をかけて三部経を通読し終えた頃、先生の体調が悪化しました。二〇一〇年夏、入院先の病床をお見舞いした折、「お浄土への道がはつきりと見えた。迷いはない」と語られたのが今生の別れとなりました。

たけだ りゅう

1952年生まれ。大谷大学修士課程修了。仏教学専攻。真宗大谷派光照寺住職。(主要論文)「tathāgataの語義解釈の一視点」「釈尊の最初説法はどのように理解されたか」「ピブラー出土舍利容器の銘文」など。

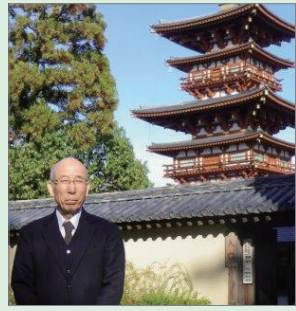
東方学院
研究会員の声

緒方康信さん

(東京本校)

五十年ぶりの通学

七十を過ぎて近所の方に「通学です」などと思ひもしなかつた時間。六十五才を過ぎても仕事をやめる事ができず、延ばし延ばしのうちに検査で膝管の様子が気になるとの見立から、糖負荷試験、精密検査、病巣生検と進み、十七ミリの立派なコリコリした腫瘍が見つかりました。手術可能とのことで膝頭部一式を取って戴き、手術を機に仕事を辞め、一年間は筋力回復、二年目は規則正しい生活。三年目に入るのを機に、四十六年前弟の死によって縁がありました仏教。家のお寺の宗派の教えと多少異なる教えではありましたが、仏教は釈尊一人が説かれていたの思ひが今まで自分を推し進めて来たようです。現在の宗派仏教がどの様な教えを弘めようとしているのかとの思ひ、戦争を仏教はどの様に考えているのだろうかとの思ひが、東方学院研究会員を志願した経緯です。入學(東方学院)してより中村先生の著書を目にし、「老いて学べば死して朽ちず」の気概をしっかりと持ち続けたいと感じています。知らないことが多く、地球の自転



に毎日残されそうなの最終コーナー、帰宅後ヒントを探しながら妻と二人三脚の勉強をさせて頂いていきます。

パリ語と私

和泉陽子さん

(東京本校)



私が、「パリ語」に初めて出会ったのは、吉津宜英先生を通してでした。それまでは、漢

訳の「大乘仏典」の存在しか知らず、『原始仏教』とは、大きな驚きと発見でした。中村元先生訳『スッタニパータ』の一語一語が心に深く入っていくのを感じました。その後、意を決して「パリ語」で読んでみたいと思ひ、東方学院の林隆嗣先生の「パリ語講座」を受講し始めて四年目になります。仏教の素養が無かつた私にとっては、当初は本当に四苦八苦でした。並行して宮元啓一先生の『ミリンダパンハ』、黒川文子先生の『ダンマパダ』も読み、少しずつパリ語で読む原始仏典の素晴らしさがわかる様になつてきたかと思うようになりました。和訳では感じられない簡潔さ、わかり易さ、韻をふむリズムの良さなど、繰り返しは多いですが、心に響くものがあります。お釈迦様の生の言葉・考へに少しでも近づけたらと思ひつつ、東方学院の先生方のお力添えをいただひて精進し、これからもパリ語を通じて原始仏教を学べたらと思ひております。

インド・ミニアチュール研修旅行

西田力さん

(関西校)

—— 畠中光享先生引率 ——

畠中先生からミニアチュールを学ぶ有志三名の願ひを叶えていただき、九日間かけてインド西北部ラジャスタン州の各地を巡つた。そこは独自のミニアチュール・スタイルを持つ地域でもある。ホテルや飛行機の予約から現地での交渉全て、そしてミニアチュールのレクチャー、旅行者には決して味わえない生身のインド満載の数々を体験し、まさに至れり尽くせりの先生手作りの旅であつた。

マハラジャの館にも泊まつた。その静謐な佇まいはミニアチュールの世界、つまり宮廷絵画の世界だ。その周りは喧騒にまみれた庶民の生活で溢れているが、ミニアチュールとは無縁の世界だ。現地ですべて見たハガキサイズのミニアチュール(写真)に思はず息をのんだ。単眼鏡で拡大して見ると、ミクロの中にマクロの世界が開けてくる。「ハベルの塔」の絵のようだ。どこまでも細い輪郭線でありながら、シャープで鞭のような曲線に見えてしまう。ミニアチュールはマハラジャの繁栄とともに全盛期を迎え、その衰退とともに途絶えてしまった。マハラジャが後世に残してくれたプレゼントといえるだろう。



一目で魅了されたミニアチュール

研究員の声

細野邦子 専任研究員

論理と存在



論理と存在の間に相関関係はあるのか。あるとしたら、

どのように相関しているのか。西洋およびインド論理学を対象とする『形式論理学』を著したボヘンスキー(一九〇二―一九九五)は、論文「論理学と存在論」(Logic and Ontology)において、この問いに答える難しさの一端を、論理学者は存在論について、存在論者は論理学について無知であることに帰します。しかし、わずかに、論理学者でありながら存在論を熟知する者、存在論者でありながら論理学に精通する者がいたことも指摘します。そして、前者としてライブニッツとホワイトヘッドを、後者としてトマス・アクィナスとウッディョータカラ(イン

ド、六世紀頃)を挙げています。執筆者はこのウッディョータカラに注目し、その著作『ニヤヤー・ヴァールツェイカ』における論理学と存在論そして両者の関係を、

現代論理学(古典論理、非古典論理)および現代存在論(分析形而上学)の観点から研究しています。たとえば、『ニヤヤー・ヴァールツェイカ』の推論を、古典論理の一つである一階述語論理を用いて分析すると、前者において妥当でない推論が後者において妥当である、などの不一致が見出されます。そこで、パラフレーズは適切であるのか、前者の体系は整合的であるのか、非古典論理を用いて分析すると一致するのか、などを検討します。このような作業により、同書における論理学、存在論、そして両者の関係が鮮明にとらえられるのではないかと考えています。

有賀弘紀 専任研究員

近況―改めて中村先生の著作に触れて

最近、中村元先生の『比較思想論』(岩波全書、一九六〇年)を再読する機会がありました。そこには、なぜ日本で「比較思想」を創唱するのが、様々な形で述べられています。そのうち「ヨーロッパ精神の自己反省」というタイトルで訴えているのが、「東洋思想を一段と低いものと見下し」た西洋のスタンスの変化です。これまでもあまり意識していなかったのですが、学生のころ読んだヤスパースの『哲学入門』の記述―中国哲学とインド哲学の全部をあわせても、その量は西洋哲学に比べる

り、重要な哲学者から分かれて発展したものも僅少であるが、重要な哲学者から分かれて発展したものも僅少である



り、重要な哲学者から分かれて発展したものも僅少である

ります―に対する違和感が改めて思い出され、また、それが拭われたような思いをしました。しかし、重要なのは、中村先生の発信しようという姿勢でした。社会は変化します。思想研究は、そうした社会に対してどう関われるのか。『世界思想史』(選集、別巻I―IV)に至った中村先生の業績は、その解答例だったのだと実感します。普段、私自身はヨーガ学派や仏教の文献に向き合っています。ヨガはヨーガ学派に起源がありません。ホットヨガが流行している時代にあつて、その背景にある思想の意味をどのように表現し、どう価値をくみ取ることができのかわ自問しつづける必要を感じています。

ほその くにこ

1961年生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科単位取得満期退学。1996年より財団法人東方研究会(現公益財団法人中村元東方研究所)専任研究員。

あるが こうき

甲府市生まれ。東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得満期退学。1996年より財団法人東方研究会(現公益財団法人中村元東方研究所)専任研究員。サンキヤ・ヨーガ思想研究に従事。東京外国語大学・立正大学非常勤講師。



令和元年10月10日(木)開催
**中村元東方学術賞・
 中村元東方学術奨励賞
 授賞式**
 於 東京・インド大使館



前田専學理事長 挨拶

第29回中村元東方学術賞は、東
 北大学名誉教授の村上真完博士お
 よび、常圓
 寺院首・日
 蓮教学研究
 所所長の及
 川眞介博士
 が授賞。両
 博士の御功

公益財団法人中村元東方研究所
 の「顕彰事業」の一環として、「第
 29回中村元東方学術賞」及び、若
 手研究者に贈られる「第5回中村
 元東方学術奨励賞」の授賞式が、
 東京・九段にあるインド大使館に
 て行われました。



及川眞介博士

績は、『仏
 のことば
 註パラマ
 タ・ジョー
 テイカー』
 の共訳註に

始まり、共著『パリー仏教辞典』
 (仏のことば註——パラマッタ・
 ジョーテイカー——付篇 パリー
 聖典スッタ・ニパータ註索引・辞
 典)に至る、およそ四半世紀にお
 よぶものです。本辞典は原始仏教
 研究にとっては、ひいては仏教研
 究にとつては画期的な貢献である



村上真完博士ご令息

ことが、今
 回の授賞の
 理由となり
 ました。前
 田専學理事
 長より「中

村元東方学術賞」が、インド大使
 閣下より「功績証明書」が授与さ
 れ、森祖道先生(パリー文献協会
 (英国) 日本代表) より祝辞が述
 べられました。

第5回中村元東方学術奨励賞を
 受賞した齋藤公太博士(國學院大
 學)の『神國』の正統論——『神
 皇正統記』受容の近世・近代』は、

古くから膨大な研究のある『神皇
 正統記』を受容史から読み直し、
 日本思想史のなかにダイナミック
 に位置づけ
 ることに成
 功した事が
 評価されて
 の授賞です。
 式典終了



齋藤公太博士

後の祝賀会では、田中教照先生(武
 蔵野大学学院長/当法人評議員)
 が乾杯の辞を述べられました。



インド大使 サンジェイ・クマール・
 ヴァルマ閣下より証明書の授与

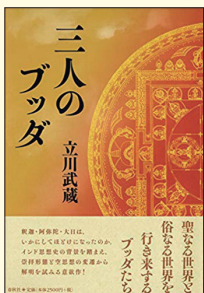
勢70名の出席者があり、各々の受
 賞を讃え
 ました。



田中教照 武蔵野大学学院長による
 祝賀会乾杯の辞

新 刊 案 内

立川武蔵著 『三人のブツダ』



釈迦・阿弥陀仏・大日如来、これら性質の異なる三人の仏がどうして大乘仏教という一つの枠組みの中に生まれたのか。インドの歴史的背景と空思想の考察から、統一理論を試みた意欲作。釈迦・阿弥陀・大日は、いかにしてほとけになったのか。インド思想史の背景を踏まえ、崇拜形態と空思想の変遷から解明を試みる。三者三様のブツダ誕生の理論に迫る。

単行本：260 頁
 出版社：春秋社
 定価：本体 2,500 円 (税別)

ISBN-13：978-4-393-13438-2
 言語：日本語
 発売日：2019 年 9 月 27 日

令和元年12月1日(日)開催
東方学院・酬仏恩講合
同講演会
 於 奈良・薬師寺

第20回東方学院酬仏恩講合同講演会は、奈良・法相宗大本山薬師寺のまぼろば会館にて行われました。昨年は48人の参加がありました。

丸井浩 常務理事 代読による前田専 學学院長の開会挨拶に始まり、澤田彰宏先生(拓殖大学講師)より、「ヒンドゥー教の大寺院の運営と組織―北インドのクリシュナ神聖地での調査から」と題した帰朝講演が行われました。これは当法人がおこなっている助成事業



高橋孝信先生

「アジア諸国 海外派遣・調査助成」による研究 調査の報告



澤田彰宏先生 講演の様子

です。続く高橋孝信先生(東京大学名誉教授)からは「北インド南インド そして日本」というテーマでの講演が行われました。薬師寺松久保秀胤長藤による閉会の挨拶を以て本年も恙なく終了となりました。



開会の辞 松久保秀胤長藤

【今後の行事のご案内】

★法恩寺仏教文化講演会

高松市の法恩寺と共催している芸術や仏教文化に関する講演会です。申込者は誰でも参加可能です。

日時：令和2年5月22日(金)

開催予定

会場：法恩寺(香川県高松市鹿角町675-13)

講師：未定

※詳細は決まり次第、ホームページ等でお知らせ致します。

★神儒仏合同講演会

神田明神、湯島聖堂と共催の講演会で、申込者は誰でも参加ができます。

本年は東京オリンピック開催との関係で、例年とは異なり、9月の開催となります。

日時：令和2年9月12日(土)

午後1時～ 開催予定

会場：神田神社祭務所ホール

定員：120名

※テーマなど詳細は決まり次第、ホームページでお知らせ致します。

2020年度東方学院の

受講申し込みを受付中

4月から開講する、東方学院の受講申し込みを、只今受付中です。

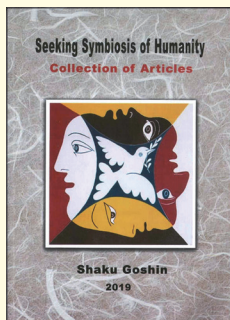
資料をご希望の方は、お気軽にご連絡をお願いいたします。

また、専用ホームページでも詳細をご案内しておりますので、左記もご参照いただけます。たら幸甚です。

東方学院専用ホームページ
<https://www.toho-gakuin.org/>

新 刊 案 内

Shaku Goshin 著 『Seeking Symbiosis of Humanity』



本書全体は、釈悟震氏が研究代表者を務める科研挑戦的研究(萌芽)「スリランカにおける宗教間の共助思想構造に関する基礎的研究」の重要な研究成果として、スリランカ国の出版社で刊行された書物。内容は、釈氏の英語論文4本(pp. 1-134)と緒言(pp. v-xi)に、ペラデニヤ大学(University of Peradeniya)のM. ニャーナナンダ教授(パリー語・仏教学)の前書き(pp. xiii-xvi)、その他で構成。

単行本：134頁

ISBN-13：978-955-96115-7-8

出版社：Nethwin Printers (スリランカ国, キャンディ) 言語：英語

定価：非売品

発売日：2019年9月30日

事務局通信

【東方学院専用ホームページのお知らせ】

平成 30 年 1 月 1 日より、スマートフォンにも対応している東方学院専用ホームページ <http://tohogakuin.org> を公開しております。講師・講義の紹介や学院からのお知らせなどをご確認頂けます。ぜひご活用ください。

【編集部より】 東方だよりは、読者の皆様からのご意見・ご要望をいただき、よりよい誌面にしていく所存です。また、ご寄稿もお待ちしております。尚、ご連絡は手紙（宛名面に「東方だより編集部宛」とご記入願います）にて承っております。

当研究所の活動にご賛同下さる皆様へお願い

公益財団法人中村元東方研究所は、創立者中村元の理想を実現するため活動する非営利の文化事業財団であり、その運営はご理解ご協力いただける皆様からのご寄付により成り立っています。当研究所では各種会員を設定して、活動趣旨にご賛同いただける皆さまの積極的なご支援をお願いしております。

(1) 一般寄付

一般寄付は会費と異なり、金額や期限等を設定せずに、随時受け付けさせていただいております。お寄せいただいた寄付金は、当法人が取り組んでいるさまざまな活動に広く活用させていただきます。

(2) 継続ご支援（維持会員・賛助会員）

当法人の活動に賛同し、継続的に支援して下さる会員も随時募集しています。

・維持会費：一口 年 50,000 円

・賛助会費：一口 年 10,000 円

※上記いずれかをお選びいただき、出来れば複数口でご支援賜れば幸いです。

(3) 普通会員：年会費 7,000 円

普通会員にも、維持・賛助両会員と同じく、定期刊行物『東方』の他、催し物、会合等のご案内をお送りいたしますが、年会費に税の優遇措置は適用されません。

【所得税の免税について】

当法人は内閣府の認定を受け、平成 24 年 7 月 2 日をもって、従来の財団法人から「公益財団法人」へと移行いたしました。公益財団法人へ移行したことに伴い、上記 (1)、(2) の一般ご寄付及び維持会・賛助会の会費は、下記の通り税制上の優遇措置が受けられます。

※所得控除・・・所得控除は、所得金額に対して寄付金額の大きい場合に減税効果が大きくなります。「その年の寄付金額 - 2,000 円」が課税される所得金額から控除されます。控除できる寄付金額はその年の総所得金額等の 40% 相当額が限度となっております。

公式ホームページのご案内

東方研究所及び東方学院の公式ホームページでは、さまざまな情報が随時更新されております。是非ご覧下さい。

ホームページ URL : <http://www.toho.or.jp>

中村元東方研究所

検索

- ▶ 当研究所の目的・理念・あゆみ
- ▶ 中村元博士の略歴・著作文献目録
- ▶ 東方学院（開講科目、講師紹介、著書紹介）
- ▶ 専任研究員紹介、書籍案内
- ▶ 公開講座、イベントのお知らせや開催レポートなど

東方学院専用ホームページ URL :

<https://www.toho-gakuin.org>

(スマートフォン対応)

東方学院

検索

- ▶ 東方学院の開講科目や講師の紹介、開講日などをご案内しております。

東方だより 令和元年度 後期号（通号第 35 号）

令和 2 年 2 月 17 日発行

【編集 / 発行】 公益財団法人中村元東方研究所 本部事務局（東京）

編集責任者：釈悟震

〒 101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 延寿お茶の水ビル 4 階

TEL : 03-3251-4081 FAX : 03-3251-4082